

「故郷ナザレでの伝道」

2015年05月11日

ルカによる福音書 4章16節～22節。 イエスはお育ちになったナザレに来て、いつものとおり安息日に会堂に入り、聖書を朗読しようとしてお立ちになった。預言者イザヤの巻物が渡され、お開きになると、次のように書いてある個所が目にとまった。「主の霊がわたしの上におられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために、／主がわたしに油を注がれたからである。主がわたしを遣わされたのは、／捕らわれている人に解放を、／目の見えない人に視力の回復を告げ、／圧迫されている人を自由にし、主の恵みの年を告げるためである。」イエスは巻物を巻き、係の者に返して席に座られた。会堂にいるすべての人の目がイエスに注がれていた。そこでイエスは、「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」と話し始められた。皆はイエスをほめ、その口から出る恵み深い言葉に驚いて言った。「この人はヨセフの子ではないか。」

主イエスは故郷ナザレに帰られた。安息日になり、ユダヤ人の規定通り、会堂（シナゴーク）に入り、礼拝を守られた。礼拝は「シェマー（聞け、イスラエルよ）」の招詞から始まり、祈り、聖書朗読（律法と預言書）、教えと続く。聖書はもちろん旧約聖書で巻物であった。ユダヤ人男性ならば、誰でも朗読が許されていた。主イエスが聖書朗読のために立ち上がると、渡された巻物は預言者イザヤの書で、次のように書かれていた。「主の霊がわたしの上におられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために、／主がわたしに油を注がれたからである。主がわたしを遣わされたのは、／捕らわれている人に解放を、／目の見えない人に視力の回復を告げ、／圧迫されている人を自由にし、主の恵みの年を告げるためである。」この言葉は、イザヤ書61章1節、2節「主はわたしに油を注ぎ／主なる神の霊がわたしをとらえた。わたしを遣わして／貧しい人に良い知らせを伝えさせるために。打ち砕かれた心を包み／捕らわれ人には自由を／つながれている人には解放を告知させるために。主が恵みをお与えになる年／わたしたちの神が報復される日を告知して／嘆いている人々を慰め」、また42章7節「見ることのできない目を開き／捕らわれ人をその枷から／闇に住む人をその牢獄から救い出すために」などからの混合引用である。

主イエスは読み上げ、巻物を係の者に返し、座られた。この聖書から、どのような解釈がなされるのかとナザレの村人の目は主イエスに注がれた。主イエスは「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」と宣言された。この言葉に、主イエスの福音宣教の内実が表されている。

主イエスは神の霊を受け、油注がれたメシア（キリスト）として遣わされた。それは① 貧しい人に福音を告げ知らせるためである。生きる場を失っている人々に神から「生きよ」と是認される喜びを伝える。② 捕らわれている人に解放を与える。無法に投獄されている人が解放される。また、時代の価値に縛られている人が解放される。③ 目の見えない人に視力の回復を告げる。人は苦難の中で事柄が見えなくなる。その目を開かせ真偽（愛）が見えるようにさせる。④ 圧迫されている人を自由にする。社会的、経済的、宗教的に差別、抑圧されている人々が自由へと解放される。主イエスは、このような神の恵みを告げ、今やそれが実現していると語った。信仰は、主イエスが宣言されたことが実現し、私の身に起こっていると「アーメン」と同意することである。それが実感できなくとも、終末的希望において承認するのである。ナザレの村人たちは主イエスの確信的な言葉に感嘆した。